

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 24 日現在

機関番号：26401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320075

研究課題名(和文) 海域交流をキーワードとした中国通俗文芸の学際的研究

研究課題名(英文) Interdisciplinary Research of Classical Chinese Fiction - Focusing maritime Cross-Cultural Exchange

研究代表者

高西 成介 (Takanishi, Seisuke)

高知県立大学・文化学部・准教授

研究者番号：50316147

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円、(間接経費) 4,050,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、東アジア海域世界における中国通俗文芸の相互交流と日中両国における受容、イメージの交流・交差などの分析を通じて、この海域世界の多様な文化とその交流の諸相を明らかにすることを目指したものである。とりわけ、江戸時代以降の日本における中国通俗文芸の受容の諸相を、書物の移動や翻訳の側面から分析を進めた点に大きな特色がある。その結果、新資料の発見も含め、これまでの研究に新たな知見を加えることができたのではないかと考えている。さらにまた、日中両国の古典小説や演劇における「死」や「巨人」をめぐる表象を手がかりに、東アジア海域世界において、イメージや観念が互いに響き合っていることも明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research aims to elucidate the diverse cultures and various exchanges of the East Asian Oceanic Sphere through analyzing the exchange and intersection of images, as well as the reception and mutual exchange of classical Chinese fiction in both Japan and China. In particular, it furthers the analysis of various aspects of reception of the classical Chinese fiction in Japan from the Edo period onward from the position of translation and movement of texts. As a result, we have been able to add new insight to previous research, including the discovery of new materials. In addition, we have shown the mutual resonance between images and concepts in the East Asian Oceanic Sphere through focusing on symbols surrounding death and giants in Japanese and Chinese classical fiction and plays.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学 各国文学・文学論

キーワード：中国文学 海域交流 中国通俗文芸

1. 研究開始当初の背景

本研究が構想される元となった「海域」に着目するアプローチは、西洋史学では以前から行われており、中国史でも近年応用が試みられるようになったものである。本研究は、研究代表者及び研究分担者が、中国史分野での特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成 寧波を焦点とする学際的創生」(平成17年度～21年度)をはじめとした海域交流をキーワードとする共同研究に参加する中で構想された。こうした中国史学における先行研究をふましつつ、中国文学研究者と中国史学研究者の協同による学際的研究を通じ、東アジア海域交流における中国通俗文芸(文言小説・白話小説・戯曲芸能)の相互受容の諸相を明らかにすることができるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、従来「日本文学」や「中国文学」という異なるカテゴリに分断され、個別に研究されていた通俗文芸という概念を打破し、通俗文芸を、「同じ海域を介して育まれた文芸」という視点から再検討を試みた。すなわち、日本と中国の間に横たわる海域を2つの世界の交わる空間として設定し、東アジア海域世界における通俗文芸の相互交流と日中両国における受容、イメージの交流・交差などの分析を通じて、この海域世界の多様な文化とその交流を再構成することを最大の目的とする。あわせて、研究成果を積極的に社会に還元することを目指した。

3. 研究の方法

本研究の柱として、次の三つを立てた。

- (1)通俗文芸の日本における受容
- (2)日本から中国への逆輸入の事例研究
- (3)日中両国の海域をめぐるイメージの交流・交差に関する事例研究

研究代表者及び研究分担者は、それぞれの研究の立場から上記の三つの柱に対して個別にアプローチを行い、研究を進めることとした。なかでも、(1)の通俗文芸の日本における受容に関しては、最重要課題として構成員全員が取り組むこととし、「江戸以降の翻訳・翻案を中心とした受容研究」「児童文学を題材とした受容研究」「戯曲・芸能に注目した受容研究」「版本の書き入れに見る受容研究」という4つの観点を設定しそれぞれが研究を進めた。

こうした個別研究をすすめて、年1～2回研究会を開催し、互いの研究成果の報告・発表を通じて、それぞれの研究成果を有機的に結合させることとした。

4. 研究成果

東アジア海域世界における中国通俗文芸の相互交流と日中両国における受容、イメージの交流・交差などの分析を通じて、この海域世界の多様な文化とその交流の諸相を明ら

かにすることを目指した本研究は、上記研究の柱のうち、とりわけ(1)通俗文芸の日本における受容、(3)日中両国の海域をめぐるイメージの交流・交差に関する事例研究の二つにおいて顕著な成果をあげることができた。なかでも、江戸時代以降の日本における中国通俗文芸の受容の諸相の研究にあたっては、書物の移動や翻訳の側面から構成員全員が各自で精力的に分析を進めたが、その結果、新資料の発見も含め、これまでの研究に新たな知見を加えることができたのではないかと考えている。

また、日中両国の古典小説や演劇における「死」や「巨人」をめぐる表象を手がかりに、東アジア海域世界において、イメージや観念が互いに響き合っていることも明らかにした。これもまた、従来の研究には無い視点を新たに示しえたのではないだろうか。

具体的な研究成果については、以下の通りである。

(1)通俗文芸の日本における受容をめぐる研究：

明治期の文言小説の受容の諸相を、当時の文言小説の翻訳および当時陸続と出版された中国文学史を精査することによって明らかにした。また、当時非常によく読まれた中国文言小説の翻訳アンソロジーである『妖怪府』(明治18年)が、林羅山『怪談全書』を利用したものであることも指摘した。近代日本における中国小説受容の上で重要な位置を占める井上紅梅について、従来の評価を批判的に再検討した。また井上に関する資料を調査蒐集し、『醒世恒言』巻23「金海陵縦欲亡身」の日本最初の翻訳者が井上紅梅であることを明らかにした。さらに、従来不明であった彼の養父家について、新発見資料から解明を試みた。『三言二拍』の昭和初期(戦前)の受容事例として、新たに増田渉の翻訳事例を発見した。『三言二拍』の最古の口語訳である松井等『伝説之支那』の調査分析を行い、本書が口語訳を採用したのは著者の中国渡航経験に由来することを明らかにした。江戸時代から明治にかけての『金瓶梅』の日本受容について資料の蒐集と整理を行った。また、この時期の『金瓶梅』観の変化が当時の小説観の変化を如実にあらわすものであること、またその小説観が中国にも大きな影響を与えたことを指摘した。徳山毛利家および台湾故宮博物館に所蔵される『金瓶梅詩話』について調査を行い、その問題点を指摘した。日本及び台湾において所蔵する『太平広記』の版本に関する調査を実施した。そして、国立公文書館所蔵『太平広記』の所蔵系統、台湾中央研究院所蔵の『太平広記』諸版本の所蔵傾向や版本系統、楊守敬旧蔵本の伝来由来などを明らかにした。江戸時代尾張藩における『太平広記』受容の諸相を明らかにした。日本および台湾で出版された子ども向け『西遊記』を調査し、刊行状

況の整理を行った。さらに児童書『西遊記』の時代による内容の変遷、『西遊記』に登場する沙悟浄について児童書における扱われ方の変遷を明らかにした。日本の『西遊記』受容史において重要な役割を果たした宇野浩二と伊藤貴麿の『西遊記』について、その特徴の考察を行った。

(2) 日本から中国への逆輸入の事例研究

日本における『金瓶梅』観の変化が中国に大きな影響を与えたことを明らかにした。故宮博物院に蔵する楊守敬旧蔵『太平広記』が、いかなる経路をへて日本から台湾へ渡ることとなったのかを明らかにした。『西遊記』における沙悟浄イメージについて、日本における河童のイメージが中国に伝わっており、何らかの形で影響する可能性があることを指摘した。

(3) 日中両国の海域をめぐるイメージの交流・交差に関する事例研究

イメージの交流・交差に関する事例研究の一環として、『太平広記』巻四百「宝」部及び、『夷堅志』中に見られる明州関連記事について詳細な訳注を作成し、発表した。唐代伝奇「杜子春」について、致富譚の観点から作品を捉え直すことにより中晩唐期の人々の富へのまなざしがいかなるものであったかを考察し、さらに「杜子春」は本来『続玄怪録』に収められていた可能性が高いことを指摘した。中国説話に見える「巨人」に着目し、ホメロス『オデュッセイア』『千夜一夜物語』『インドの不思議』『青邱野談』『今昔物語集』等と比較することにより、海域交流による説話の伝播の一端を明らかにするとともに、東アジア海域におけるイメージの交差についても考察を行った。元雑劇と人形浄瑠璃、歌舞伎の復讐劇における死の描写などに注目し、両者の比較を通してその特徴を明らかにした。日中古典演劇比較の観点から、文献調査を経て主に元雑劇と人形浄瑠璃・歌舞伎における仏教的要素の受容について、「忍字記」劇等を例に取りつつ明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 27 件)

高西成介「『太平広記』訳注(稿) 巻四百「宝」部金上(中)」『高知県立大学紀要文化学部編』63巻、2014年、査読有、1-10

高西成介・塩卓悟「『夷堅志』明州関連記事訳注稿(下)」『高知県立大学文化論叢』第2巻、2014年、査読有、64-84

勝山稔「近代日本に於ける中国白話小説「三言」の受容について 新たに発見された松井等の事例(1922年)を中心として」『国際文化研究』20号、2014年、査読有、

掲載確定

勝山稔「寺田寅彦の著作に現れた井上紅梅 井上紅梅に関する事跡研究の一環として」『アジア文化研究』2号、2014年、査読有、掲載確定

林雅清「中国と日本の復讐劇における死の描写 元曲「趙氏孤児」劇と「仮名手本忠臣蔵」を例に」『京都文教短期大学研究紀要』52、2014年、査読無、103-113

塩卓悟「楊守敬旧蔵葉敬池刊『太平広記』について」『中国古典小説研究』18、2014年、査読有、121-146

高西成介「巨人たちの海再考」『「海域交流與日中文學」国際學術研討會會議論文集』、2013年、査読無、10-22

高西成介・塩卓悟「『夷堅志』明州関連記事訳注稿(中)」『高知県立大学文化論叢』創刊号、2013年、査読有、68-82

勝山稔「井上紅梅の養家「井上商店」の記録について 井上紅梅に関する事跡研究の一環として」『国際文化研究科論集』21号、2013年、査読有、127-142

勝山稔「大正時代上海に於ける「支那風俗研究会」について 井上紅梅による白話小説翻訳作業の前史として」『国際文化研究科論集』21号、2013年、査読有、113-126

川島優子「江戸時代における「資料」としての『金瓶梅』 高階正巽の読みを通して」『東方学』125、2013年、査読有、107-122

川島優子「明治・大正期における『金瓶梅』の受容」『「海域交流與日中文學」国際學術研討會會議論文集』、2013年、査読無、88-98

林雅清「元雑劇と人形浄瑠璃 「趙氏孤児」劇と「仮名手本忠臣蔵」を中心に」『「海域交流與日中文學」国際學術研討會會議論文集』、2013年、査読無、42-54

塩卓悟「中国の民衆は何を食べてきたのか? 中林広一『中国日常食史の研究』」『東方』388、2013年、査読無、29-33

塩卓悟「尾張藩における『太平広記』の受容 蓬左文庫所蔵本を手掛かりに」『「海域交流與日中文學」国際學術研討會會議論文集』2013年、査読無、23-41

井上浩一「宇野浩二と児童書『西遊記』」『「海域交流與日中文學」国際學術討論會會議論文集』2013年、査読無、123-130

井上浩一「日本における子ども向け『西遊記』について 挿話選択の傾向と方法」『国際文化研究』19号、2013年、査読有、1-16

高西成介「『太平広記』訳注(稿) 巻四百「宝」部金上(上)」『高知県立大学紀要文化学部編』61巻、2012年、査読有、9-26

勝山稔「近代日本に於ける中国白話小説「三言」所収篇の受容について 新たに発見された混沌庵(1929)を中心として」『国際文化研究科論集』20号、2012年、205-222

勝山稔「近代日本に於ける中国白話小説「三言」所収篇の受容について 新たに発見された桃義会(1924)の翻訳事例を中心として」『国際文化研究科論集』20号、2012年、

査読有、223-240

②①川島優子「日本人と金瓶梅」『中国近世文学と中国文化』(立命館孔子学院) 2012年、査読無、151-183

②②林雅清「『淫婦』の結末 『水滸伝』における「不義」の扱いについて」『関西大学中国文学会紀要』33、2012年、査読無、35-50

②③塩卓悟「宋代都市における魚食文化と魚行・魚商」(「宋代都市的食魚文化と魚行・魚商」)『近代東亞都市的社會群體與社會網絡』國際學術研討會會議論文集』、2012年、査読無、1-14

②④塩卓悟「『十至十三世紀中国の政治與社會學術研討會暨嶺南史研究會第二屆年會』参加記」『史泉』116、2012年7月、査読有、25-30

②⑤勝山稔「改造社版『魯迅全集』をめぐる井上紅梅の評価について」『東北大学中国語学文学論集』16、2011年、査読有、125-144

②⑥勝山稔「近代日本に於ける中国白話小説『三言』所収篇の受容について 増田渉の事例(一九二七)を中心として」『國際文化研究論集』19、2011年、査読有、175-192

②⑦塩卓悟「国立公文書館蔵『太平広記』諸版本の所蔵系統」『汲古』59、2011年、査読有、64-69

[学会発表](計45件)

塩卓悟「近世・近代東亞『太平広記』の流傳 以国立故宮博物院館蔵楊守敬舊藏本為中心」2014年3月、清華大学人文社会学院D302研討室(招待講演)

川島優子「日本にやってきた中国の小説たち 『水滸伝』『金瓶梅』のちから」環日本海講演会、2014年2月、鳥取県立図書館(招待講演)

高西成介「明治期の中国文言小説の受容をめくって(2)」第4回「海域交流と中国古典小説」研究会、2013年12月、高知県立大学

勝山稔「近代日本に於ける中国白話小説『三言』の受容について 新たに発見された松井等の事例(1922年)を中心として」第4回「海域交流と中国古典小説」研究会、2014年12月、高知県立大学

川島優子「故宮博物院蔵『金瓶梅詞話』の影印本をめくって」第4回「海域交流と中国古典小説」研究会、2013年12月、高知県立大学

林雅清「元曲における仏教の受容について 『忍字記』劇を例に」第4回「海域交流と中国古典小説」研究会、2013年12月、高知県立大学

塩卓悟「近世・近代東アジアにおける『太平広記』の流傳 台湾所蔵本を手掛かりに」第4回「海域交流と中国古典小説」研究会、2013年12月、高知県立大学

井上浩一「伊藤貴麿の児童書西遊記」第4回「海域交流と中国古典小説」研究会、2013年12月、高知県立大学

川島優子「江戸時代における『金瓶梅』の受容」山口中国学会、2013年12月、山口大学(招待講演)

川島優子「江戸時代『金瓶梅』伝播考略」2013 明代文学与思想國際學術検討会、2013年11月、南華大学

塩卓悟「日本の茶文化と台湾・中国」2013年11月、靜宜大學日本語文學系(招待講演)

塩卓悟「唐宋時期的夜市」2013年11月、國立暨南國際大學歷史學系(招待講演)

勝山稔「" 海域から文化を見直そう" こんな所に日中文化!? - 海域からみた文化交流 - 」2013年10月、とかちプラザ(北海道)(招待講演)

井上浩一「" 僕らの国の西遊記" こんな所に日中文化!? - 海域からみた文化交流 - 」2013年10月とかちプラザ(北海道)(招待講演)

林雅清「鄭廷玉撰『布袋和尚忍字記雜劇』と弥勒信仰」第161回宋代史談話会、2013年10月、大阪市立大学

高西成介「『妖怪』という語をめくって」第3回「海域交流と中国古典小説」研究会、2013年9月、台北凱撒大飯店

勝山稔「井上紅梅の養家『井上商店』の記録について - 井上紅梅に関する事例研究の一環として - 」第3回「海域交流と中国古典小説」研究会、2013年9月、台北凱撒大飯店

川島優子「『金瓶梅』の服飾描写」第3回「海域交流と中国古典小説」研究会、2013年9月、台北凱撒大飯店

林雅清「元雜劇における死の描写 日本の古典演劇との比較を通して」第3回「海域交流と中国古典小説」研究会、2013年9月、台北凱撒大飯店

塩卓悟「楊守敬旧蔵葉敬池刊『太平広記』について」第3回「海域交流と中国古典小説」研究会、2013年9月、台北凱撒大飯店

②①井上浩一「沙悟浄のカップ率」第3回「海域交流と中国古典小説」研究会 2013年9月、台北凱撒大飯店

②②川島優子「江戸時代被当作“資料”究読的金瓶梅 從高階正巽所施訓注談起」明代文学学会(籌)第九届年会暨 2013 年明代文学國際學術検討会、2013年8月、復旦大学

②③林雅清「日中仇討物比較 「忠臣蔵」と「趙氏孤兒」を例に」熊取町日本中国友好協會第18回總會記念講演、2013年7月、熊取交流センター煉瓦館(大阪府)(招待講演)

②④高西成介「富へのまなざし 『続玄怪録』所収の物語をめくって」中国四国中国学会、2013年6月、愛媛大学

②⑤井上浩一「宇野浩二の五つの西遊記」第20回東北大学國際文化学会、2013年6月、東北大学

②⑥高西成介「巨人たちの海再考」「海域交流與日中文學」國際學術研討會、2013年2月、台北市電腦公會聯誼中心

②⑦川島優子「明治・大正期における『金瓶梅』

の受容」 「海域交流與日中文學」國際學術研討會、2013年2月、台北市電腦公會聯誼中心

⑳林雅清「元雜劇と人形浄瑠璃 「趙氏孤兒」劇と「仮名手本忠臣蔵」を中心に」 「海域交流與日中文學」國際學術研討會、2013年2月、台北市電腦公會聯誼中心

㉑塩卓悟「尾張藩における『太平広記』の受容 蓬左文庫所蔵本を手掛かりに」 「海域交流與日中文學」國際學術研討會、2013年2月、台北市電腦公會聯誼中心

㉒井上浩一「宇野浩二と児童書『西遊記』」 「海域交流與日中文學」國際學術討論會、台北市電腦公會聯誼中心、2013年2月

㉓林雅清「元雜劇と人形浄瑠璃 復讐劇と「死」をテーマに」 2012年度中国古典小説研究会関西例会、2013年2月、キャンパスプラザ京都

㉔高西成介「唐代致富譚再考 - 『続玄怪録』と致富譚」 第154回宋代史談話会、2013年1月、大阪市立大学

㉕林雅清「人形浄瑠璃と「中国」 『仮名手本忠臣蔵』を中心に」 第2回「海域交流と中国古典小説」研究会、2012年12月、大栄教育システム広島大手町校

㉖塩卓悟「中央研究院所蔵『太平広記』の諸版本 傅斯年図書館を中心に」 第2回「海域交流と中国古典小説」研究会、2012年12月、大栄教育システム広島大手町校

㉗塩卓悟「唐宋時代の夜市」 第11回関西比較中世都市研究会、2012年12月、大阪市立大学文化交流センター

㉘塩卓悟「唐宋時代の肉食における性差」 平成24年度九州史学会東洋史部会、2012年12月、九州大学

㉙林雅清「元曲 中国古代の文学から芝居へ」 熊取町日本中国友好協会第17回総会記念講演、2012年7月、熊取交流センター煉瓦館（大阪府）（招待講演）

㉚塩卓悟「宋代都市における魚食文化と魚行・魚商」（宋代都市的食魚文化と魚行・魚商） 「近代東亞都市的社會群體與社會網絡」國際學術研討會、2012年7月、中央研究院近代史研究所

㉛川島優子「高階正巽と『金瓶梅』 鹿児島大学付属図書館玉里文庫蔵『金瓶梅』を中心として」 第58回中国四国地区中国学会大会、2012年6月、広島大学

㉜井上浩一「日本における子ども向け『西遊記』について 挿話選択の傾向と方法」 第19回東北大学国際文化学会、2012年6月、東北大学国際文化研究科

㉝高西成介「明治期の中国文言小説の受容をめぐる（一）」 科研費公開研究会、2011年12月、関西大学恭仁山荘（京都府）

㉞勝山稔「改造社版『魯迅全集』をめぐる井上紅梅の評価について」 科研費公開研究会、2011年12月、関西大学恭仁山荘（京都府）

㉟井上浩一「日本における子ども向け『西遊記』の出版状況と挿話の選択」 科研費公開研究会、2011年12月、関西大学恭仁山荘（京

都府）

㊴勝山稔「魯迅作品翻訳における井上紅梅の評価について」 白東史学会年次大会、2011年12月、中央大学駿河台記念館（東京都）

㊵塩卓悟「唐宋時期の女性と肉食現象 以『太平広記』『夷堅志』為線索」 十至十三世紀中国的政治与社会學術研討會暨嶺南宋史研究会第二屆年會、2011年11月、中山大学（中国・広州）

〔図書〕(計1件)

林雅清『中国近世通俗文学研究』汲古書院、2011年、312頁

〔その他〕

ホームページ等

・子どものための西遊記（井上浩一作成）

<http://mediamarker.net/u/guanhua/>

・海域交流をキーワードとした中国通俗文学の学際的研究

<http://www003.upp.so-net.ne.jp/haoyi/kaiki/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高西 成介 (TAKANISHI, Seisuke)

高知県立大学・文化学部・准教授

研究者番号：50316147

(2) 研究分担者

勝山 稔 (KATSUYAMA, Minoru)

東北大学・国際文化研究科・准教授

研究者番号：80302199

川島 優子 (KAWASHIMA, Yuko)

広島大学・文学研究科・准教授

研究者番号：30440879

林 雅清 (HAYASHI, Masakiyo)

京都文教短期大学・ライフデザイン学科・講師

研究者番号：70551985

塩 卓悟 (SHIO, Takugo)

大阪市立大学・都市文化研究センター・研究員)

研究者番号：80449826

井上浩一 (INOUE, Koichi)

東北大学・高等教育開発推進センター・非常勤講師

研究者番号：40587169